



高島市地区 赤十字奉仕団だより

第10号
令和4年3月

さあ できることから始めよう!



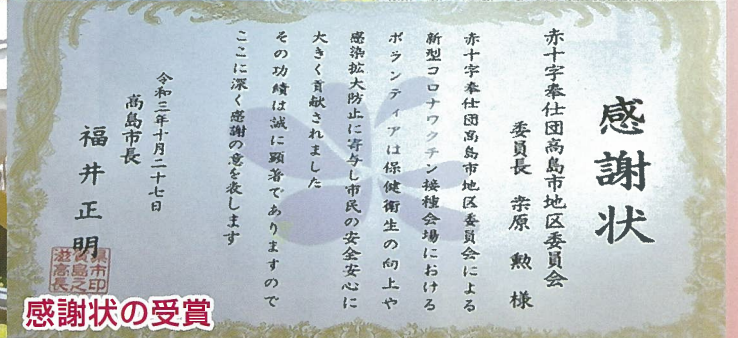
15周年記念大会・一日研修会



災害支援講習会 ~ロケットストーブ作成~



ワクチン接種会場ボランティアの実施



感謝状の受賞

感謝状

赤十字奉仕団高島市地区委員会
委員長 赤原 勲 様

赤十字奉仕団高島市地区委員会による
新型コロナウイルス接種会場における
ボランティアは保健衛生の向上や
感染拡大防止に寄与し市民の安全安心に
大きく貢献されました
その功績は誠に顕著であり、ますので
ここに深く感謝の意を表します

令和三年十月二十七日

高島市長

福井 正 明

市長印

結成15周年を迎えた 高島市地区赤十字奉仕団

令和3年度は、高島市地区赤十字奉仕団結成15周年の記念の年にあたり、10月27日(水)高島市民会館にて記念大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により奉仕団活動や各種行事の中止・延期の中でしたが、感染者数の低下傾向を踏まえ、なんとか挙行の運びとなりました。記念大会の中では25年以上の長きにわたり奉仕団活動を行ってこられた先輩諸姉53名について、情熱と努力で各奉仕団を支え繋いでこられたご功績に対し、感謝状の贈呈式を執り行うことができましたこと、謹んでご報告申し上げます。



また、記念大会内ではコロナワクチン集団接種が市内で実施された際、各接種会場での誘導案内・場内整理等の活動に延べ100人の奉仕団員がボランティア活動に従事したことが称えられ、市長から感謝状を受ける栄誉を賜りました。「命・健康・尊厳を守る人道の精神」の下、「コロナ禍でもできる、コロナ禍だからこそできる活動」、まさに「さあ、できることから始めよう」の取り組みでした。

最後になりますが、「明るく楽しく皆様のために」活動する奉仕団でありたいと願い、今後とも、皆様の一層のご支援ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

赤十字奉仕団高島市地区委員会
委員長 赤原 勲

不断の努力に心を寄せて

市内各地域の赤十字奉仕団の皆様には、日頃から人道と博愛の精神のもと、赤十字活動の推進にご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、令和2年3月頃から流行し始めた新型コロナウイルス感染症については、私たちの生活に多大な影響を及ぼしたところです。この間、全国的にマスク不足が深刻化していた時期に、奉仕団の皆様から手作りの布マスクを市にご寄付いただいたほか、コロナワクチン接種会場におけるボランティアとして約2か月間、延べ100人の奉仕団員の皆様にご協力をいただきました。



また、近年全国各地で大規模な災害が多発している中、令和2年7月に発生しました高島の拜戸地区におけます土石流災害の際には、地域の方々と連携し、迅速に炊き出しを実施いただくなど、本当に多岐にわたる温かいご支援、ご協力をいただいていることに対しまして、改めてお礼申し上げます次第です。赤十字奉仕団の皆様のごような的確な判断力、迅速な行動力、そして団結力は、これまでの長きにわたる奉仕団活動や日々の訓練等の地道な積み重ねなど不断の努力の賜物であり、改めて敬意を表します。

結びになりますが、赤十字奉仕団の益々のご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

日本赤十字社高島市地区
地区長 福井 正明

**諸先輩方の思いを引き継ぎ、
奉仕団活動への決意を新たに**

**赤十字奉仕団高島市地区15周年記念大会
令和3年度高島市地区赤十字奉仕団一日研修会**

令和3年10月27日（水）、高島市民会館にて結成15周年記念大会が開催されました。日本赤十字社滋賀県支部支部長、赤十字奉仕団滋賀県支部委員長、高島市社会福祉協議会会長のご臨席の下、感染症対策を講じた上で市内奉仕団員約150人が集い、盛大に行われました。大会の中では、来賓の皆様からの激励の言葉をいただいたほか、25年以上にわたり在団された53名の団員に対する感謝状の贈呈、大会宣言が決議され、団員一同、赤十字奉仕団員としての自覚と誇りをかみしめました。

また、記念大会後に開催された一日研修会では、マキノ赤十字奉仕団の河越安美治団員より「平成30年台風第21号の被害にかかるマキノ赤十字奉仕団の活動について」と題し、災害時の奉仕団活動等による「共助」の重要性について、体験発表をいただきました。

さらに、滋賀県支部委員長の田附弘子様(81)より「赤十字に魅せられて」と題して記念講演をいただきました。田附様からは、赤十字の理念である「人道」について、自らの経験や活動を踏まえご講演いただきました。私自身、この講演を受け心を大きく動かされました。といひますのも、家族・仕事・体のことが心配になって、奉仕団活動に自信がなくなり、活動から逃げることを考えていたためです。田附様のご講演により、自分のできる限りの奉仕団活動を頑張らせていただこうと決意を新たにしました。



田附委員長



マキノ奉仕団 河越様

ロケットストーブで非常食を作ろう

災害支援講習会

令和3年11月14日（日）、マキノ土に学び里研修センターにて、近江八幡市赤十字奉仕団地区委員会の3名をお招きし、災害時に活用が期待できるロケットストーブ作りを行いました。当日は「FEC自給圏ネットワーク・市民工ネルギーたかしま」の皆様のご協力を得て、2時間足らずでロケットストーブが完成しました。その後、マキノ奉仕団員手作りの炊き込みご飯をいただきながら交流しました。

ロケットストーブは燃焼効率が高く身近な木切れでも十分な火力が得られるメリットがあることを知りました。災害時に備えて、普段から使い方に慣れ、ロケットストーブを使った非常食作りを広げていければと感じました。参加された近江八幡市の男性団員は、「ロケットストーブの名前は知っていたが、今日初めて作った。早速、近江八幡市でも取り組んでいきたい。」と話されていました。（清水）



いのちと健康、尊厳を守る活動

新型コロナウイルス接種会場ボランティア

昨年の夏、コロナワクチン接種会場における受付補助や誘導等のボランティアを行わせていただきました。私自身ワクチン接種を受ける際に不安いっぱいでしたが、スタッフの方に助けていただき、安心して接種を終えたことを覚えております。スタッフとして半日ずつ3回支援させていただきました。初めての接種で不安そうの方々のほんの少しの声掛けでスムーズに誘導するお手伝いできました。自分のような何もわからないものでも、少しでもお役に立ててよかったと思いました。

記念大会時に、福井市長からこのボランティアについて感謝状をいただき、それぞれの団員が「よい仕事できた」「奉仕の心で仕事できた」と心の栄養をいただきました。（谷本）



88歳以上の高齢者の方を対象に、メッセージ付きの葉牡丹を贈りました。

残暑時期の育成は大変でしたが、一株一株に丹精を込め、コロナ収束を願いながらラッピングをしました。お渡しした方のマスク内の喜びの笑みは、今日までの尊い人生の歩みの証でしょう。

少子高齢化が進む中、一声ふれあい活動の更なる展開が、奉仕団員としての使命であることを実感させられました。（谷口）



マキノ奉仕団

一声ふれあい運動



今津奉仕団

80歳以上のお一人暮らしの方へのプレゼントとして、化粧石鹸にのりペーパーナフキンを貼るデコパージュを作りました。袋詰めには、容器にデコパージュ2コと絵手紙のコースターを入れてプレゼント用にリボン結びもしました。皆さんとても良い笑顔で受け取ってくださいました。デコパージュは石鹸として使うことももちろん、玄関やトイレに飾るといい香りがして心が和みますよ。（谷本）

新旭奉仕団では、年2回「一声ふれあい活動」を行っています。

12月の活動では、80歳以上のお一人暮らしの方にカイロ・ステイックコーヒール・折り紙で作った干支「寅」にお手紙を添え、団員手作りの新聞バックに詰めて訪問させていただきました。

「よう来てくれはったな」「いつも見守りありがとう」などのお言葉をいただき、活動の励みになりました。（清水）



新旭奉仕団

みんなのために 地域のために ~各奉仕団の活動紹介~

防災減災の取り組み



高島奉仕団

令和3年11月12日（金）に高島公民館の中庭で、アルミホイールで巻いたホットドックを牛乳パック（1,000CC）の中に入れて、それを燃やしてカートンドックを作りました。

またロケットストーブを使用して、小田巻蒸しも作りました。この2つを試食しながら非常食についてみんなで考えました。コロナウイルス感染者が小規模の状態の時にいい経験ができました。（白井）

年1回藤樹神社の清掃を行っています。藤樹神社は「日本陽明学の祖」近江聖人中江藤樹先生を祀る神社で、令和4年は創設百周年の佳節とのことです。そんな歴史のある神社の清掃に奉仕団として携わらせていただけて誇りと感謝でいっぱいです。藤樹先生の教えに「致良知」「五事を正す」とあります。赤十字奉仕団員の信条と重ね、今できることから、そして自らを正すより良い奉仕団員でありたいです。（金田）

毎月の最終月曜日の朝に、朽木小中学校の花壇や校舎回りの除草作業を行っています。老人会や更生保護女性会の会員の方と一緒に取り組むこともあり、みんなで行うとみるみるきれいになります。先生方や子どもたちの「おはようございます」「ありがとうございます」の元気で大きな声に癒されています。子どもたちの姿をみて、なかなか逢えない孫を思いながら、ホッとすると同時に過ぎさせていたいです。（坂本）

奉仕活動



朽木奉仕団



安曇川奉仕団

自助は最大の共助

地区委員会委員研修

令和3年12月8日（水）、地区委員会の委員研修で滋賀県危機管理センターに伺いました。

まず、原子力災害対策についてお話を伺いました。滋賀県は原子力発電所が立地する福井県と隣接しており、もし原子力災害が発生し放射性物質が大気中に放出された場合、私たちがどのように行動すればいいのかについてお話をいただきました。東日本大震災の際の原子力災害の怖さを思い出し、万が一に備え避難の方法などをしっかりと確認しておく必要性を感じました。

続いて、「災害から命と暮らしを守る」の内容では、「救うを託されている」のスローガンのもと活動している赤十字奉仕団として、「自助」「共助」「公助」について、改めて重要性を認識しました。特に、「自助は最大の共助、共助のための自助」ということを教わり、災害を最小限に抑えるには、災害時に自分自身が無事であること、それだけで地域貢献しているとお話をいただきました。今一度、平時において自分ができることを確認し、災害時にしっかりと命を守るよう取り組んでいきたいと思いました。（坂本）



湖岸をきれいに！

男性団員による清掃活動

令和3年5月22日（土）「びわこを美しくする運動」の一環として各奉仕団の男性団員が集まり浜辺清掃活動を行いました。総勢20人が安曇川町の近江白浜に集結し、ほぼ半日を費やし約50 kgのごみを回収しました。プラスチックや不燃ゴミが多く、定期的な清掃が必要と痛感させられました。私たちの生活が豊かになる一方、その生活スタイルのツケがいろんなところに戻ってきていると、一同考えさせられた清掃活動になりました。（衆原）

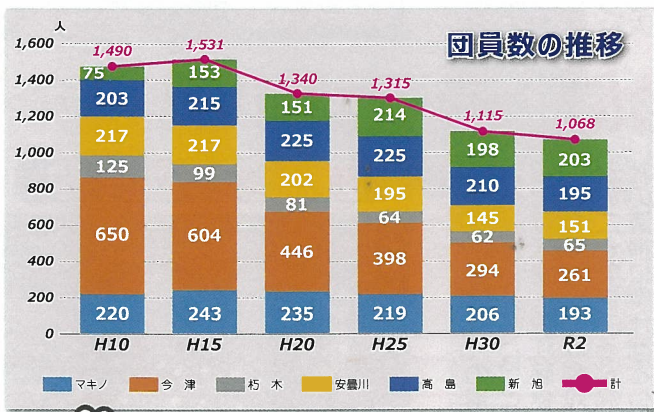


団員募集

～一緒に楽しく活動しませんか～

高島市地域全体を通して、団員数が減少しています。奉仕団の活動は、皆様一人ひとりの力が合わさることにより大きな原動力となります。日々の活動や勤労奉仕などの活動で感じられる達成感や感謝されるうれしさは言葉にできないものがあります。また、『支援したい』・『助けたい』・『何かしたい』という気持ちを行動に移せるのが赤十字奉仕団です。

全体では、団員数は減少しているものの、近年は男性団員が増加傾向にあり、男性ならではの豊富な経験、力強さなどを生かした取組が加わり、より一層充実した活動となっています。



奉仕団員の信条



- 一、すべての人びとのしあわせをねがい、陰の力となって人びとに奉仕する
- 一、常にくふうして人びとのために、よりよい奉仕ができるよう努める
- 一、身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、世界の平和につくす



同じ気持ちを持った地域の仲間と一緒に活動しませんか。あなたの入団をお待ちしています！

日本赤十字社キャラクターハートラちゃん

問合せ先：市役所社会福祉課内 (0740-25-8120)

あたたかいご支援ありがとうございます

毎年、日本そして世界で大きな災害が発生しています。大規模な災害に対し、令和2年度は市内赤十字奉仕団から日本赤十字社滋賀支部へ右記の額の義援金（寄付金）を送付しました。

被災地の一日でも早い復興を願っています。

令和2年7月豪雨災害義援金 46,750円

令和3年2月福島県沖地震災害義援金 41,750円

NHK海外たすけあい(寄付金) 41,750円

編集後記

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、緊急事態宣言が出された昨年の夏、赤十字奉仕団の活動も中止あるいは規模を縮小して実施せざるをえない状況でした。そのような中、開催された15周年記念大会。実施できたことにより、身近なことが変わりゆく時代にあっても、赤十字奉仕団であることに誇りをもって、地域での活動を行っていきたくて決意を新たにすることに繋がった大会であったと思います。

広報委員一同

赤十字奉仕団 高島市地区委員会委員名簿

新旭	高島	安曇川	朽木	今津	マキノ									
上原初	清水和	白井や	竹中や	八田和	金田初	青山本	山本房	坂下惠	山谷露	山本郁	森本喜	高岡朋	谷口富	正田口
美美	美	い	ひ	子	美	枝	栄	子	子	子	子	子	子	子